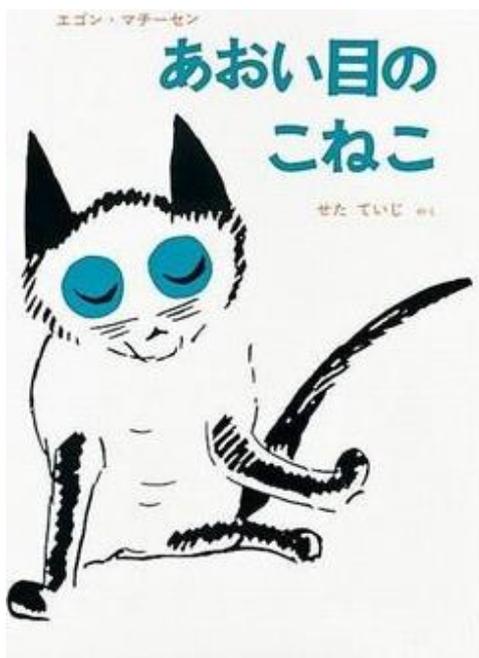


～読んでみない？こんな本～

あおい目のこねこ

エゴン・マチーセン作 瀬田貞二訳 福音館書店



『むかし、青い目のげんきなこねこがいました。

あるとき、こねこは、ねずみのくにをみつけにでかけました。』

青い目のこねこは勇みに勇んで出かけます。だってねずみの国を見つけたら、もうお腹をすかせることはありませんもの。ところがねずみの国はなかなか見つけれません。道中捕まえたものといったら、ハエや蚊、それにアブラムシだけ。アブラムシはベトベトにくっついて捕まえなかった方がよかったみたいですが、ハエや蚊でも何にも食べないよりはマシでした。…青い目のこねこは、ねずみの国を見つけられるのでしょうか？

大きな魚に水をかけられても、なんだかわからない大きな目玉に出会ってびっくりしても、ハリネズミに口をきいてもらえなくても、黄色い目のねこに何か言われても、こねこはいつも前向きです。「こんなことなんでもないさ」と切り換えて、ずんずん前に進みます。こねこの進み具合と同じように、“7のまき”まであるお話しはとてもテンポよく、読んでいくうちに一緒に元気になっていくようです。そのせいか、小学校のおはなし会等で読むと後から借りていかれることが多い本です。